

## キャンセラーとは何か？ (What is the canceller?)

### 【Key words】

偽造・盗難カード、カードの被害発生の予防策・被害拡大の抑止策、ID データの流出、カードのスキミング、クレジット詐欺、ID 二重使用、ID 二重使用の検出、METEORA

### 【初めに】

スキミング・キャンセラーの「キャンセル」の意味は少なくとも取引時の ID を捨てることです。取引時の ID とは；

取引時 ID ≡ 顧客 ID + id(x)

ここで、顧客 ID は取引時 ID の固定データ、id(x) は取引時 ID の可変部分を表します。偽造・盗難キャッシュカードの被害発生の予防策・被害拡大の抑止策と言え、従来は各種の制限を意味していました。しかし、スキミング・キャンセラーはシステムで抑止します。すなわち、誰も知らぬ間に起きるのが ID データの流出です、これを日頃から破棄すれば、そして新しい ID を獲得しておけば、誰もあなたに「なりすます」ことはできません。カードを自分だけのものにするからです。犯罪者とのイタチゴッコを断ち切ります。

カードを自分だけのものにするに当たって、スキミング・キャンセラーは、

- 1) 人の都合に Just meet する認証 I/F です。
- 2) 人の動機に Just meet する認証 I/F です。
- 3) 人の不安に Just meet する認証 I/F です。

この認証 I/F をグローバルに用意します。詐欺の温床を根絶するためです。その仕事は金融機関とお話合いのできる起業家のものです。☛[交渉権獲得について](#)

### 【ID データの流出とキャンセル】



キャンセラーを利用する（端末併設型）

カードで決済する時、いつも私は、「このカードから ID データは流出しないよね？」と自分に問いかけます。この問いは“祈り”みたいです。キャンセラーを利用すれば、私のクレジットは私だけのものになり、私のカードは私だけのものになる。自分のことは自分で守れるようになります、当然のことですが。

## キャンセラーとは何か？ (What is the canceller?)



キャンセラーを利用する（モバイル型）

一般に、目的を達成する途中で効果が派生する。まず、キャンセラー効果を紹介します。

### 【キャンセラーの効果】

カードのID情報がスキミングされる事件、あるいは、流出する事件が後を絶たない。大規模な流出事件も2005年に米国で起きています；クレジット情報を約4000万件、コピーするプログラムが稼働していたという。マスターカードは4月中旬に「異常な取引」を察知し、取引の共通点を洗い出している内に、情報の流出口を見つけた、という；それは小売店と金融機関の間で決済データの中継を行っている会社<sup>注</sup>であった。調べた結果、不正プログラムの存在を突き止めた。このリスクに曝されていたのは米国の顧客が9割、残りは旅行者であったという。注：CardSystems Solutions Inc. 日本でも同様の事件が2009年に起きた。

貴方が米国で買い物をした人だと仮定して、カードで決済した後にモバイル・キャンセラー（下の写真）を利用していきましょう。そうすると、



モバイル・キャンセラー（クレジット）

流出したIDはお買い物の時に使われたID情報です。その流出IDを使う人（犯罪者）は買い物に成功しないのです。これが、キャンセラー効果です。●[トップページの予防](#)

### 【キャンセラーの目的】

キャンセラーを利用すれば、確かにカードの不正利用を防止します；それは効果です。キャンセラーの目的は別に在ります。それは犯人の姿を浮き彫りにすることです。どういふことかと言うと、犯行の現場と経路情報と時刻を確定します；悪の現場を白日の下にさらす訳です。それによって犯罪そのものを抑止するのです。●[トップページの追跡](#)  
すなわち、キャンセラー効果で、流出IDデータはサーバのログに見つかります。です

## キャンセラーとは何か？ (What is the canceller?)

から、流出 ID のアクセスを検知するは容易です；[●トップページの責任分解点](#)

検知したら、二重 ID の運用を止め、二重 ID の経路情報と時刻を確定します：さらに、検知した後、疑似サイトに誘導し、詐欺の現場を押さえる、という罫捜査さえ可能です。

### 【グローバル・ローミングサービス】

詐欺の温床を根絶するために、この認証 I/F をグローバルに用意します。それは金融機関とお話合いのできる起業家達の仕事になります。起業家は特別ライセンスです。

●[交渉権獲得について](#)

記述、渡辺栄治 (METEORA)

2009 年 12 月 10 日